

## パレスチナ人とイスラエル人の証

2012年2月11日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

アリ・ベン

ユダヤ系イスラエル人とパレスチナのアラブ人が互いの肩を抱き合いながら空港で立ち、自分たちはイエシュアにあって兄弟なのだと言っていくレバノン人に説明すると、レバノン人の一部からは畏敬と感嘆の念が起こります。それが、最近、イスラム教の中東にフォーカスを当てた宣教の会議から帰ってきた私たちのチームメンバーの一つに実際に起こりました。そこには 400 人のアラブ人信者（幾人かは元イスラム教徒）、200 人の西洋人宣教師、そして一人のイスラエル人メシアニックジューが参加しました。会議に参加したパレスチナのクリスチャンの一人は、私たちのチームがスポンサーとなりました。

全世界がユダヤ系イスラエル人とパレスチナのアラブとの間の紛争を知っています。それゆえ、このような信仰によって一致し、それに正真正銘な友情と受容が伴う一対を、しかも彼らが時間とお金を犠牲にしていることを人々が見たとき、その結果はイエシュアの和解の愛の力の超自然的な証なのです。

### メッサーによるメシアニックに対する混乱 (Messer Messianic Mess)

アシェル・イントレーター

今週、恥ずべき動画が出回っており、それはメシアニック・ラビと思われるラルフ・メッサー師が、一人の黒人牧師であるエディ・ロング師をトーラーの巻物で包んでいる映像でした。その動画はトーラーの巻物を冒涇したとユダヤ人共同体を大いに反発させ、メシアニックジューに対する悪評となりました。その動画は広くメシアニックジューの共同体から非難されました。

私たちは悪を意図したものが善へと変えられるよう神に祈りました。私たちが失望したのは、この記事が YNet という、イスラエルで最も人気のあるヘブライ語の新聞の英語版に掲載されたということです。この記事の横に、エルサレムにある私たちのCongregationで、私とトーラーの巻物を抱えた私の息子の一人の写真が掲載されていたのです。

良い面として、YNet は記事の中でメッサーがメシアニックジューを代表するものではないと説明していること、そして、私とのインタビュー（いくつかの誤引用がありますが）や何人かの他のイスラエル人信者のインタビューを再掲載していることです。この記事は私たちの信仰に対してかなり好意的でした。

## イランとエステル

今週ヨーロッパはイランに対して経済制裁を強化させる方向へと動き、そしてオバマ大統領はアメリカにあるイランの資産を凍結することを宣言しました。イスラエルの新聞はイラン人女優とのインタビューを掲載しました。彼女はインタビューの中で、現在のイラン政権は反イスラエルですが、多くのイラン国民はそうではないことを語りました。

イスラム教の過激派が核兵器を入手しようとする競争は、今年のエステルの断食に対して奇妙な背景となっています。エステル書はペルシャ(イラン)でのユダヤ人に対する大量虐殺が行われようとした状況を説明しています。しかし、それは諸国のリバイバルへと奇跡的に変化し、終わりの時の出来事を予表しています。どうかあなたの祈りのグループが私たちや他のメシアニック・Congregationや祈りの家々と共に3月7日水曜日の午前6時から午後6時までの12時間の執り成しの断食に参加して頂けますよう、ご準備下さい。(日本時間:同日午後1時から翌8日午前1時まで)

## 神のフェイスブック

イエシュアの弟子に対する最も基本的な訓練は日々御言葉を読み、黙想することです。私たちは毎朝と毎晩神の御言葉を書かれていることに従うために学びます。

詩篇 1:2-3 - まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

ヨシュア 1:8 -この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。

神はあなたが成功して欲しいと望んでおられます。御言葉は主の真実、コミュニケーションの道具です。神の御顔(face=顔)が現れている書です。主の「フェイスブック(facebook)」なのです。御言葉の原則に従う人生は神の目に成功と実りが保証されているのです。

## 炎を燃やし続ける

### アリエル・ブルーメンソール

私たちのリバイブ・イスラエル・チームは日々の「PPP」(賛美 praise、祈り prayer、預言 prophecy)のセッションに大いなる強調点をおいています。それは日曜日にスタッフの祈り、月曜日から木曜日まで公開集会、そして金曜日のCongregationによる執り成しの祈りが行われています。以下、

(レビ記 6:12-13 を基礎としています) 定期的な祈りや賛美礼拝による見張り人というものを構築しようとしている人々に対する励ましです。

1. **祭壇**: 捧げ物の犠牲の指定された場所と、神との交流を持つことです。新しい契約(新約聖書)の元、動物犠牲は不要となりました。しかし主は私たちの心を祭壇のように建てられます。私たちの心から口へ、私たちは神にすべての賛美と祈りを「立ち上らせる」すなわち私たちの人生において聖霊の炎はたえず維持されるのです。
2. **木材**: 祭司は毎朝祭壇に「燃やすための木材」を置きます。誰が木材を切り、積み上げ、シロアリから木材を守り、それを神殿に運びますか。私たちは賛美、踊り、宣言、神との近い交わりという楽しい部分を求めます。しかし誰かが音響、ギターの新弦の取り替え、礼拝堂の掃除、洗面所の維持などをしなければなりません。祈りの部屋での祈りを続けることは舞台裏での多くの作業であり、木材をいつも準備しておくことは祭壇で高い質の炎を燃やすことができるのです。
3. **朝**: ヘブライ語の言葉で「朝に」は二回続けて現れます。(訳注: 聖書の中で「ベ・ボケル、ベ・ボケル」「朝に、朝に」というふうに見え、それは各外国語聖書では「毎朝」と翻訳される。アリエル師よりの別メール解説から) 御言葉は朝一番に賛美礼拝と執り成しの祈りの炎の補給の重要性について強調しています。もちろん私たちは賛美礼拝そして祈りを一日 24 時間(いつでも)することができますが、その日の忙しさが入って来る前に、神に私たちの最も良い時間を捧げることに特別なものがあります。
4. **全焼の捧げ物**: はその他すべての賛美礼拝の土台で、それは継続して捧げられなければならない、たとえ夜通しであってもです(それゆえラビたちによって「タミッド」または「継続した」捧げ物と呼ばれている)。全焼の捧げ物は完全に神のもので、なだめの香りを伴う完全に主によって消費しつくすものです。灰であっても宿営の外の聖別された場所に持って行かなければなりません。私たちは何も得ることはない、ということに心配せず、祭司の王国として主が受け取るに値する賛美礼拝を捧げるために進み出るのです。
5. **交わりの捧げ物**: この「平和な」捧げ物には、私たちへの美味しい肉があります。神は善いお方で、主の子どもたちとの交わりを好まれ、彼らに良い物を与えます(ルカ 11:13)。しかし主が善であることに対する経験が、主に対する賛美礼拝の動機となるような混乱があってははいけません。黙示録に書かれている天の賛美礼拝から垣間見ることのできる、何度も繰り返されるメッセージは、「主は賛美を捧げられるべきお方」なのです。